

防災・減災グループについて

2020年度「地域防災・減災センター」としてスタートし、2023年度から「地域レジリエンス研究センター防災・減災グループ」に名称変更。少子高齢化が進んだ地方都市の**防災対策、医療介護問題、感染症対策などの問題を連動して解消**することを目指す。

- ◆ 1970年代に全国に先駆けて取り組んだ産・官・学・民一体の取り組みである「宇部方式」を発展させ、**工学、医学等の分野横断かつ産学官民が連携した「シン・ウベ方式」**を新たに提案
- ◆ 個々の高齢者施設や高齢者にカスタマイズされた**誰一人取り残さない支援モデルを、宇部市と連携**して全国の地方自治体に先駆けて構築

山口県が抱える課題

平時（日常）の課題

- ◆ 高齢化率が全国4位で、超高齢化が急速に進行
- ◆ 公共交通インフラが乏しく、車がないと生活は不便
- ◆ 中小都市が県内で分散し、高度医療・福祉リソースが集約されにくい

災害発生

災害時（非日常）の課題

- ◆ 要配慮者が適切な時期に適切な方法で避難するのが容易でない
- ◆ 避難先で、安全で衛生的な生活を送るのが難しい（ライフラインの維持や感染症対策が必要）
- ◆ 要配慮者に被害が集中・継続化する可能性が高い

超高齢化時代を迎える地方都市において平時と災害時をつなぎながら、**レジリエンス（回復力）を備えた社会モデルを創成**する

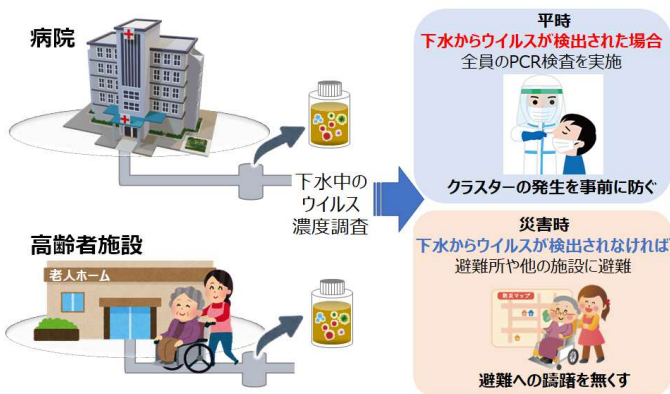
日常と災害時をつなぐデマンド交通の実装

平時に交通弱者の買い物・通院等の外出支援を行うデマンド交通を、災害時の避難支援に活用



日常からのウイルスモニタリングによる災害時の感染症リスクの予測

大気・室内中や下水中のウイルス濃度をモニタリングすることで、個別のPCR検査を実施せず感染状況を予測・可視化



日常と災害に対応する防災福祉コミュニティ形成

「まちの減災ナース育成研修」を通じて、地域に在住する人材資源の活用と住民協働を進め、日常と災害時をつなぐ校区単位の防災福祉コミュニティを形成



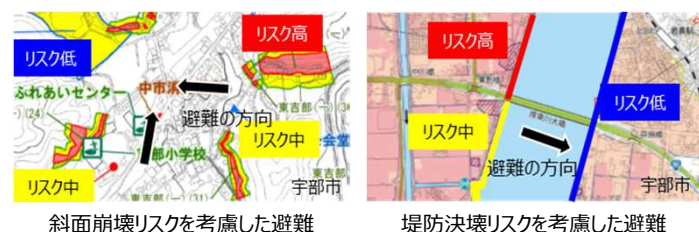
まちの減災ナース（宇部市）

まちの減災ナースとは

災害静穏期において、地域や地区の防災計画をふまえ、行政担当者や住民とともに、看護の専門性を生かして減災活動に取り組み、災害発生時においても、被災地域の住民の健康と生活を支援する役割を担う看護職

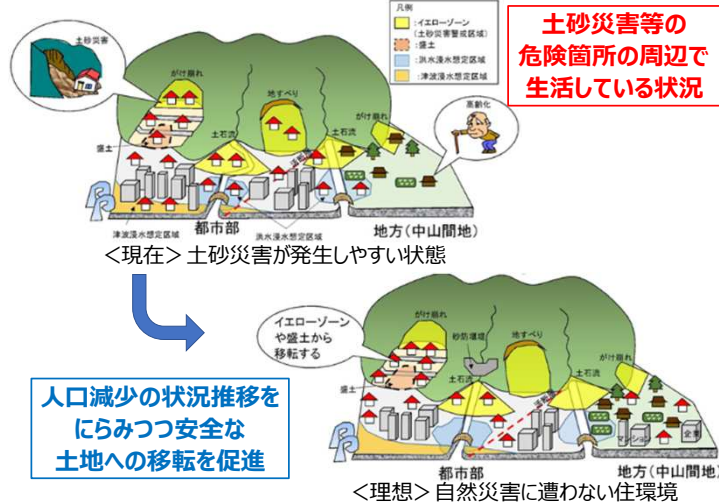
災害予測とライフラインの耐災害性を考慮したマップの作成

水道の配水管経過年数・耐震化率、幹線道路の液状化リスク等をふまえ、災害に強い避難施設の位置、脆弱エリアを抽出し、様々な災害規模や複合的な災害に対応したハザードマップを作成、最適な避難経路を表示するアプリを開発



被災ポテンシャルの歴史的返還の把握（時間防災学）

最新の技術で被災ポテンシャルを長時間スケールで評価・判定



5G・IoTを活用した防災・ヘルスケアネットワークシステムの開発

平時 ヘルスケアネットワーク（独居高齢者見守りシステム）



災害時 5Gネットワークを活用した災害時の監視システム

高解像度カメラ+5Gリアルタイム配信による

- 1) 河川水位・氾濫監視
- 2) 土砂災害・ため池決壊の監視
- 3) 要配慮者の避難状況把握



地域レジリエンス研究センターのグループ

防災・減災グループ

自然災害部門
リスクマネジメント部門
保健衛生部門
環境・防災教育部門
国際防災部門
海洋・気象部門

共創イノベーショングループ

DXスマートシティ部門
UAV点検・調査部門
AI・IoT部門

環境DNAセンター

メソッド開発部門
バイオインフォマティクス部門
医療・衛生応用部門
水産応用部門
生態応用部門